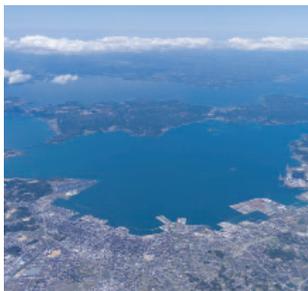




杉本 忠一 議員  
(無党派)



七尾港

一般質問

「港湾」の活用について

市政発展の生命線「七尾港」の活用を！

質

市政の発展は港湾の活用が生命線であったが、七尾港の物流港としての姿は現在衰退していると思うが、市長の受け止め方と次の事業目標について伺う。

また、この現状を打破するために、港の発展、利活用に情熱ある人材や高度な知識、経験がある人材の確保が必要と強く思うが市長の考えを伺う。

答

七尾港の取扱貨物の約90%が石炭関連とLPGとなっており、経済界を中心に、原木のトリアル輸送、ポーターセルスを継続しているがなかなか貨物の増加につながらない状況である。

港湾機能の充実は大変だと考えている。国や石川県に対して、大田地区国際物流ターミナル水深13メートル化などの要望を続け、港湾機能の拡充に努めていく。併せて能越自動車道へのアクセス道路として、市道東湊195号線の今年度完成を目指していく。

港の振興や活用は、地元経済界を中心に石川県・七尾市が加わる七尾港整備振興促進協議会が担っており、引き続き知識・経験のある民間が主体となり、行政も連携して取り組んでいく。

七尾港をこのままにしておいていいのかという議員の熱い思いは共有し、活性化できるような仕掛けができるかどうか民間と検討していく。

【その他の質問項目】

- 平成16年度の1市3町合併から今日までの総括について
- 七尾港大田工業用地について
- 七尾港をリサイクルポートとして活用することについて

一般質問

公立能登総合病院の医療体制について

病院内の感染リスクを減らす対策を！

質

国は、新型コロナウイルス感染症緊急包括交付金を大幅に拡充し、専用病棟を設置する医療機関に財政支援を行うが、この交付金をどのような使い道に充てるのか伺う。

また、コロナ患者の検査にあたり、院内の移送ルートや換気時の封鎖区域の明確化、待合椅子の間隔を空けるなど、一般来訪者が安心して通院できるように感染リスク対策がどこまで徹底されていたか伺う。

答

一般病棟の1病棟54床をコロナ専用病棟としたことが大きな減収となっており、交付金はここに補填される。また、第2波、第3波に備え、必要な物資の確保や700万円をかけてPCR検査装置の導入も予定している。

コロナ患者の検査は、原則外来患者が帰った午後に行っている。患者にはマスク着用の上、車椅子での移動とし、職員が同行し、一般患者と距離をとり、院内設備に触れさせないように気を付けている。検査後は機器の消毒と40分の換気を行っており、換気中は、一般患者が近づかないようテープ等で明確にゾーニングをしている。

待合室や会計では、間隔を空けるよう院内掲示をし、床に立ち位置表示をするなどの対策を行っている。

【その他の質問項目】

- コロナ対策の行政対応について
- 遠隔教育の進め方について
- 公共交通手段の改革について
- パトリアとテナントの在り方について



西川 英伸 議員  
(新政会)



会計前立ち位置表示